

■ 地域拠点におけるまちづくりについて

多核連携都市の実現に向けて

1. 目指すまちづくりの方向性 (令和3年度 第2回定例会資料より)

持続可能で移動しやすく暮らしやすい
『多核連携都市』の実現

- (1) 将来を見据えた持続的なまちづくりを推進
- (2) 中心市街地や地域拠点に都市機能を集約
- (3) 官民連携し、地域の特性を活かしたまちづくりを推進
⇒ 地域が主体となり、まちづくりの方向性を検討

2. 昨年度の実績

- (1) 地域の課題や意見の聞き取り
→ 地域住民や地域団体、企業と意見交換を行った
- (2) 立地適正化計画の周知
→ 地域住民等や庁内に向けて立地適正化計画の周知を図った
- (3) 地域主体で行っている活動の支援
→ 地域のまちづくりに対する機運醸成を図った

令和4年度以降も引き続き取組みを継続

3. 今年度からの取組

OR3年度

地域住民(自治会、自治協、まちづくり団体等)に対し、意見聴取や立地適正化計画の周知を図った

R3年度の取組から見えた課題

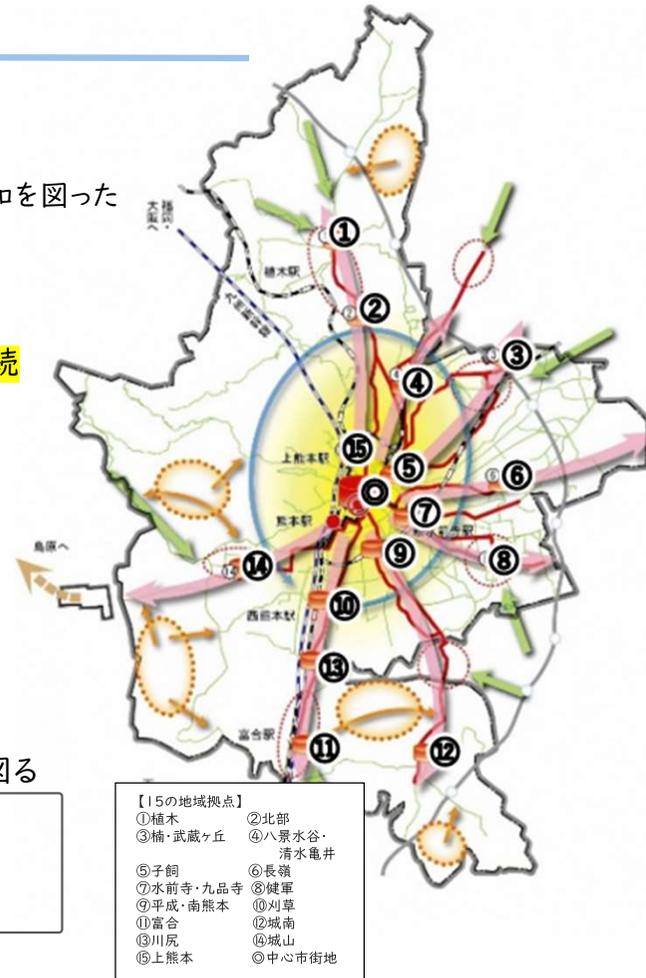
- ・ 将来のまちづくりの担い手育成(多世代参加によるまちづくり活動の促進)
- ・ まちづくりに関わる機会が少なかった方々へのきっかけづくり
- ・ 地域課題を共有する場の設定

OR4年度

小、中学校と連携し、「総合的な学習の時間」などを通じて、将来に向けたまちづくりの視点から地域課題の解決を図る

期待できる効果

- ・ 小中学生が自ら地域課題の解決に取り組むことで、地域への愛着やまちづくりへの興味が育まれる
- ・ 授業の内容を家庭で共有することで、多くの方々に同様の効果が広がっていくことが期待される



今後の進め方(案)

年度	短期(3~5年)	中期(20年)	長期
地域拠点におけるまちづくり	①機運醸成(植木、北部、楠・武蔵ヶ丘、八景水谷・清水亀井、長嶺、水前寺・九品寺、平成・南熊本、刈草、城南、川尻、城山、上熊本) ○立地適正化の周知 ○地域課題の聞き取り ○地域活動の支援 ○地域内の課題共有 ○次世代の担い手の育成	継続	多核連携都市の実現
	②構想(子飼、健軍、富合) ○地域の将来像の検討 ○支援制度の検討、構築	継続	
	③事業化 ○事業着手(熊本市、民間) ○事業への補助(熊本市)		
	④維持 ○事業の運営、管理 ○活動費の支援		
各地域拠点におけるまちづくりの取り組み状況は様々であることから、「①機運醸成」、「②構想」については、短期的な枠を超え、取組を行っていく			